

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25	利用者が安心できる生活を確保し入所生活を継続したい。	全職員が入所時、状態変化時の利用者の身体能力や精神面、行動面でのリスクを見極める能力を養う。	①入所前情報や日々の申し送り事項を確実に把握し情報の収集、発信に努める。 ②医療との連携を密にする。 ③気づきを重要視し未然解決を図れる様検討する。	6か月
2	49	商店が立ち並び民家が少ない立地環境にある。日頃から地域の方々との交流の機会を持ち、ホームの存在や活動等の理解を拡げていきたい。利用者の高齢化と重度化が進展し以前に増して外出等の支援が難しくなっている。	業務内容を見直し、勤務体制を工夫する等、外出や地域との交流の機会を増やし余暇や楽しみの支援に努める。	①個別の機能訓練や散歩、外気浴等をもっと生活に取り入れ、生活機能の維持継続に努める。 ②地域の活動や行事に参加をしたり、利用者が地域から孤立しないように、家族の支援やボランティアや慰問の受け入れを積極的に行っていく。	12ヶ月
3	6・7	今後も身体拘束廃止委員会が中心になり身体拘束や虐待の防止について取り組んでいきたい。	今現在も身体拘束は0である。支援の中に身体拘束や虐待につながる言動や間違っただ対応の区別ができる知識や教養を養い、生活支援環境を整備したい。	①人権や権利擁護についてもっと深く学ぶ。 ②身体拘束や虐待にあたる言動を見極める。 ③ひとりで悩まず報・連・相に徹し、支援面での困惑や葛藤をチームで共有し心因的な負担の軽減、改善に努める。	6ヶ月 ～ 12ヶ月
4	35	・安心できる生活を確保したい。 ・災害時に備え安全対策を強化したい。	スタッフの一人ひとりが日頃より危険から身を護るための適切な判断と迅速な行動をとるための予備知識を身につけ、対策を検討し災害に備えるスキルを身につける。	①全職員が各災害を想定した訓練計画要綱を作成(シミュレーション)できるようになる。 ②訓練での問題点を協議し改善策を検討する。 ③緊急連絡網や緊急持ち出し物品等のリスト作成やその他の必要な体制を整えていく。	6ヶ月 ～ 12ヶ月
5	35	施設は地域住民の緊急避難所に指定されている。災害時に地域密着型施設としての役割を担うために、近隣の商店の方や住民との協力体制を整えていきたい。	施設では定期的に避難訓練(火災・地震・津波)を実施している。地域住民の参加を募り、今後は行方不明利用者の捜索訓練も実施していきたい。	区長、民生委員、近隣住民のかたに施設の構造や利用者や入居者の活動スペースの把握と災害時における協力体制、対策を協議しながら合同の避難訓練等を行い、いざという時に備えての顔の見える関係づくりを推進していく。	6ヶ月 ～ 12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。